

大分大学教職大学院

教職大学院教員と大分県指導主事とが共に学ぶ研修の実施

(研修事業名：「学校組織の自律性と価値を高める校内研修の開発」)

研修の目的：

「学び続ける教員像」の実現に向けて、教職大学院には今後ますます地元教育委員会や学校等との連携・協働が求められる。その実現に向けた取組として、今年度も大分県教育委員会と連携し、指導主事等との課題意識の共有を図ることを目的とする研修を実施した。

研修の内容：

年度当初に教育人事課と打合せを行い、「教師の働き方改革」，「カリキュラム・マネジメント」，「教師のやりがいを生み出す校内研修」にテーマを絞り込んだ。まとめの議論として「学校における校内研修のあり方」を多面的に協議した。

日程・参加者等：

令和6年10月から12月に3回、それぞれ報告30分、交流10分とした。まとめの回は1月に90分の時間を取り協議した。オンデマンド（収録動画の配信）と対面を組み合わせた。受講者数は教職大学院教員17名、指導主事等158名であった。（受講延人数はこの3倍）

成果と課題：

教育人事課との連携により、県内の指導主事等の参加（悉皆研修）が得られた。受講者から「仮説－検証によらない校内研修の事例紹介に感銘を受けた。教員が主体的に学べる校内研修が必要だ」等の感想を多数もらった。

本研修は教職員支援機構の「NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業」に採択されて実施したものである。

学校組織の自律性と価値を高める 校内研修の開発

10/23開催

教師の働き方改革の注目点！

～働きがいを育む業務改善～

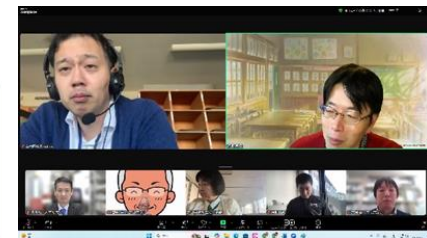
講師：（一社）ライフ&ワーク代表理事 妹尾 昌俊 先生

教師の働き方改革については、学校内外から注目が集まっています。その働き方改革については課題が多いのも現状です。単に時短を目的とした業務削減ではなく、教師の働きがいと教育の質の両方を高める改革について、一緒に考えてみましょう。



妹尾 昌俊氏（ライフ＆ワーク代表理事）

学校に関する様々なデータを示しながら、働きがいを生み出す働き方改革に絞って講義をいただいた。オンデマンド配信から3週間後に「受講者との振り返り会」（右）が実現し、更なる学びを生み出した。



11/27配信

カリキュラム・マネジメントの極意

～カリマネを形骸化させないために～

講師：上越教育大学教授 安藤 知子 先生

カリキュラム・マネジメントは学校にどのように浸透しているでしょうか。ともすれば、年間を通じた教科間の関連表をつくることで取り組んだことにしていないでしょうか。カリマネを形骸化させない、エッセンスについて一緒に学びましょう。

安藤知子教授（上越教育大学）

カリキュラム・マネジメントはその本質を理解していないとすぐに形骸化する傾向にある。カリキュラムを「動かし続ける」とことと「カスタマイズする」ことが肝心であって、特に子どもの実態や保護者・地域の願いに沿う形で柔軟にアレンジできていることが重要であると言う。教師は子どもの学習のマネージャーとなる意識が必要であるとした。



渡辺 貴裕准教授（東京学芸大学）

講義後の質疑応答の様子

学校の校内研修・研究の実態は、指導案と授業をもとに語り合われるスタイル、予め設定された仮説に基づきその正しさを検証する形式になっており、「こうあるべき」とする意見交換に終始し、参加者によって創造されるものとなっていない、と指摘する。「対話型模擬授業会」の実践を通して校内研修のあり方について問題提起をした。